

問1 北海道の室蘭などで発展した鉄鋼業の歴史的背景と、現在の産業構造の変化について述べた文として、背景や理由が正しく説明されているものはどれですか。（2022年 東京都公立入試 類似）

- 道内産の豊富な石炭や鉄鉱石を背景に発展したが、現在は輸入原料への依存を強め、自動車部品用の特殊鋼など付加価値の高い製品に注力している。
- もともと海外からの輸入原料を加工するために砂嘴の地形を利用して港を整備したが、現在は造船業が衰退し、製造品出荷額の大半が食品工業となっている。
- 明治時代の北海道開拓に伴い、農業機械の自給を目的として鉄鋼業が興されたが、現在は周辺国との競争に敗れ、すべての製鉄所が閉鎖されている。
- 複雑な海岸線を利用した観光業と両立させるため、環境負荷の低い小規模な石炭火力を維持しながら、特殊鋼ではなく汎用的な建築用鋼材を主に生産している。

問2 ある都道府県の統計データによると、「年間訪問者数が約2,133万人」「世界遺産登録数が1件」「空港の数が14か所」「新幹線の駅の数が2か所」となっています。この統計が示す都道府県名と、その交通網の特徴を説明した文の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2021年 岩手県公立入試 類似）

- 北海道：広大な面積を有するため道内の航空網が発達しており、青函トンネルを通じて新幹線も乗り入れている
- 沖縄県：多くの離島を抱えるため空港の数は多いが、現在のところ新幹線は開通していない
- 奈良県：世界遺産の登録数は多いものの、内陸に位置し面積も狭いため、県内に空港は設置されていない
- 神奈川県：訪問客数は非常に多いが、羽田空港に近い県内に空港はなく、新幹線の駅は5か所設置されている

問3 北海道の日本海側から太平洋側にかけての地形断面図を分析したとき、中央部の険しい山地を挟んで西側と東側に位置する平野の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2021年 岩手県公立入試 類似）

- 西側に石狩平野、東側に十勝平野
- 西側に十勝平野、東側に石狩平野
- 西側に根釧台地、東側に十勝平野
- 西側に石狩平野、東側に根釧台地

問4 夏の北海道東部の太平洋沿岸では、濃霧（海霧）が発生しやすいため、8月の日照時間が約127時間にとどまる釧路のように、札幌（約171時間）と比較して日差しが遮られる傾向があります。この濃霧を発生させる要因となる、北海道の東側を南下する寒流の名称を次の中から選びなさい。（2021年 茨城県公立入試 類似）

- 千島海流（親潮）
- 日本海流（黒潮）
- 対馬海流
- リマン海流

問5 北海道にある札幌、室蘭、知床などの都市名や地形名の多くに共通する歴史的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2015年 佐賀公立入試 類似）

- 先住民族であるアイヌ民族の言葉に、後から漢字を当てはめたものである。
- 江戸時代の本州から渡った商人たちが、故郷の地名をそのまま付けたものである。
- 縄文時代から続く日本の古語が、気候の影響で変化せずに残ったものである。
- 明治時代の開拓使が、欧米の植民地を参考にして英語風の響きを漢字にしたものである。

問6 北海道の北東側に面し、千島列島へと連なる海域において、冬季にシベリア沿岸から流氷が押し寄せることが大きな特徴となっている海域の名前を選びなさい。（2024年 石川公立入試 類似）

- オホーツク海
- 日本海
- 太平洋
- 東シナ海

問7 日本の都道府県別の農業産出額において、品目別の割合を示した統計資料のうち、畜産の割合が約52.5%と過半数を占め、一方で米の割合が約12.2%にとどまっているという特徴を持つ都道府県はどこですか。（2016年 岩手県公立入試 類似）

- 北海道
- 新潟県
- 千葉県
- 宮崎県

問8 札幌市の中心部で、道路が垂直・水平に交わり区画が整理された「格子状の街路」が採用された背景として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 島根公立入試 類似）

- 明治政府の開拓使が、広大な土地を効率的に管理・開発するために計画的な都市建設を行ったため。
- 江戸時代の城下町の構造を引き継ぎ、敵の侵入を防ぐために見通しの良い道路を配置したため。
- 自然発生的に形成された集落が、人口増加に伴って地形に合わせて四方に拡大していったため。
- 広場を中心に道路が四方八方へ伸びる、中世ヨーロッパの都市計画をそのまま導入したため。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 道内産の豊富な石炭や鉄鉱石を背景に発展したが、現在は輸入原料への依存を強め、自動車部品用の特殊鋼など付加価値の高い製品に注力している。	北海道の重工業は、室蘭周辺の炭田や鉱山といった「原料供給地」に近いという立地条件を活かして発展しました。しかし、国内の炭鉱が閉山し、鉄鉱石も輸入に頼るようになったことで、単純な素材生産だけでなく、自動車産業向けの特種鋼など、高度な技術を要する分野へと生産内容をシフトさせて生き残りを図っています。製造品出荷額で見ても、鉄鋼業（約3954億円）は造船業（約310億円）を大きく上回る規模を維持しています。
問2	<b>答え 1</b> 北海道：広大な面積を有するため道内の航空網が発達しており、青函トンネルを通じて新幹線も乗り入れている	統計にある「空港数14」は全国で最多の数値であり、広大な面積を持つ北海道特有の指標です。沖縄県も離島のために空港数は多いですが、新幹線は走っていません。奈良県には空港がなく、神奈川県は新幹線の駅数が多いものの県内に空港はありません。北海道は広大な土地を結ぶ航空網に加え、北海道新幹線の駅が函館近郊などに設置されていることが大きな特徴です。
問3	<b>答え 1</b> 西側に石狩平野、東側に十勝平野	北海道の中央部にある大雪山系などの山地を境にして、西側（日本海側）には石狩川の下流に広がる石狩平野があり、東側（太平洋側）には大規模な畑作が行われている十勝平野が位置しています。
問4	<b>答え 1</b> 千島海流（親潮）	北海道の東側の太平洋岸には、北の千島列島方面から冷たい海水が流れてくる寒流の千島海流（親潮）が通っています。夏の湿った空気がこの冷たい海面によって冷やされることで水蒸気が凝結し、大規模な濃霧が発生します。これにより、釧路などの地域では夏の日照時間が短くなります。
問5	<b>答え 1</b> 先住民であるアイヌ民族の言葉に、後から漢字を当てはめたものである。	北海道の地名の約8割がアイヌ語に由来すると言われています。先住民であるアイヌ民族は、文字を持たない代わりに地形や資源の特徴を詳細な言葉で呼び合っていました。明治時代以降の開拓の過程で、それらの呼び名に日本語の漢字が当てはめられたため、独特の読み方を持つ地名が各地に定着することとなりました。
問6	<b>答え 1</b> オホーツク海	北海道の北側に位置するこの海域は、冬になるとアムール川から流れ込む淡水の影響で塩分濃度が低くなった海水が凍り、それが季節風に乗って南下してくる「流氷」が見られることで有名です。日本の周辺海域でこのような大規模な流氷が観測されるのは、この海域特有の現象です。
問7	<b>答え 1</b> 北海道	広大な土地を活かした大規模な農業が展開されており、特に十勝平野や根釧台地などを中心に乳牛や肉用牛の飼育が盛んです。そのため、農業産出額の構成では畜産が5割を超えるという、他県にはあまり見られない独特の構成比を示しています。米どころとして知られる新潟県などとは対照的な構成です。
問8	<b>答え 1</b> 明治政府の開拓使が、広大な土地を効率的に管理・開発するために計画的な都市建設を行ったため。	札幌は1869年に設置された開拓使によって、何も無い原野から計画的に建設された人工的な都市です。アメリカの都市計画や京都の条坊制を参考に、行政機能や居住区を効率的に配置し、交通の利便性を高める目的で格子状の街路が導入されました。これは、古い歴史を持つ都市が地形や防衛上の理由から不規則な街路を持つことが多いのと対照的です。